第１章　まちづくり将来ビジョン策定について

１-１　策定にあたって

（１）策定の背景と目的

港北エリアは、名古屋市の南西部の名古屋競馬場付近を中心とした半径２km 程度を設定範囲としており、すぐ南のガーデンふ頭や名古屋競馬場から約３km 南の金城ふ頭など名古屋港に近いエリアです。

アクセスとしては、あおなみ線で名古屋駅から名古屋競馬場前駅まで約１３分（約７km）、地下鉄名港線で金山駅から東海通駅まで約７分（約４km）で繋がっているほか、中川運河や名古屋高速道路もエリア内を通っており、都心部と臨海部を繋ぐ南北の中間地点となっています。また、国道１号、国道２３号といった主要な道路が東西に走っており、交通至便なエリアです。

エリア内の開発動向は、名古屋競馬場前駅周辺では、令和４年に名古屋競馬場が弥富市へ移転する予定であり、その跡地（約２０ha）において令和８年に開催される第２０回アジア競技大会メイン選手村としての活用及び大会後の後利用事業が検討されています。また、港区役所駅周辺では、みなとアクルス（約３３ha）の開発が進んでおり、平成３０年にはその中核となるららぽーとが開業するなど、将来に渡り大規模な開発が予定されているエリアです。

一方、当エリアは、充実した鉄道や幹線道路などの交通基盤、水辺空間や公園・緑地など、様々な地域資源を有しています。特に、中川運河は、水上交通や漕艇センターを拠点とした水上スポーツに活用されています。

港北エリアでは、平成１６年にあおなみ線、平成２５年に名古屋高速が開通し、交通基盤の整備が進んできており、みなとアクルスが新たな拠点として整備されつつある状況の中、今後予定されている名古屋競馬場跡地での開発を契機として、地域資源を今まで以上に有効活用することにより、利便性、回遊性を向上させ、憩いや賑わいの創出による新たな地域ブランドの形成に向け、アジア競技大会メイン選手村の後利用事業やさらにその先を見据えた周辺のまちづくりを推進するため「港北エリアまちづくり将来ビジョン」を策定しました。

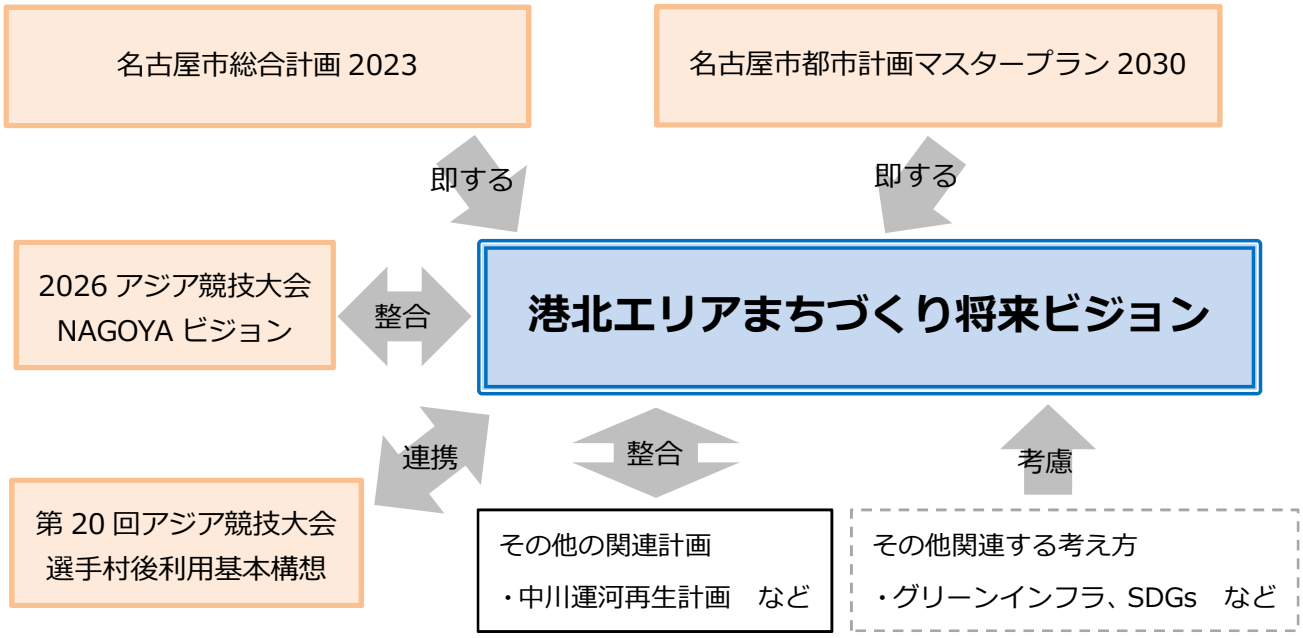
名古屋競馬場前駅（写真上）、荒子川公園駅（写真下）
出典：あおなみ線ＨＰ

荒子川公園（写真上）、土古公園（写真下）
出典：名古屋市港区ＨＰ

（２）位置づけ

港北エリアまちづくり将来ビジョンは、名古屋競馬場跡地での選手村整備を契機として捉え、当エリアの状況の変化を踏まえ、本市等の関連計画と整合・連携を図りつつ、将来のまちづくりの展望をまとめたものです。したがって、施策や事業の実現性を担保したものではなく、当面の検討の方向性・可能性を示したものですが、行政としての姿勢を示しつつ、市民や企業の方にとっても、このエリアの将来のまちづくりの指針となるような観点で作成した将来の展望です。

●本将来ビジョンと主な関連計画との関係



港北エリアは、市の関連計画に位置づけられており、本市の総合計画である「名古屋市総合計画 2023」においては、令和 8（2026）年の第 20 回アジア競技大会の開催と令和 9（2027）年のリニア中央新幹線の開業を重要な柱と位置づけており、アジア競技大会のメイン選手村となる名古屋競馬場跡地の周辺の港北エリアまちづくりに取り組み、地域の課題解決、魅力向上に資する新たな価値・機能を創出していく必要があるとされています。

また、「名古屋市都市計画マスタープラン 2030」では、港北エリアは、重点的にまちづくりを展開する 8 つの地域のうちの一つとして位置づけられているとともに、「名古屋城を核とした名古屋港に至るまちづくり・ものづくり魅力軸」や都心とみなとの拠点を結ぶ「水辺連携軸」上にあり、さらなる交流の活性化をはかるため魅力向上や資源間の連携が必要なエリアとして、これからの本市のまちづくりにおいて重要な拠点の一つとなっています。

（３）港北エリアの範囲

名古屋競馬場を含む、概ね、地下鉄名港線（東）、荒子川（西）、国道１号（北）、荒子川運河及び荒子川公園（南）で囲まれたエリアを「港北エリア」として設定しました。

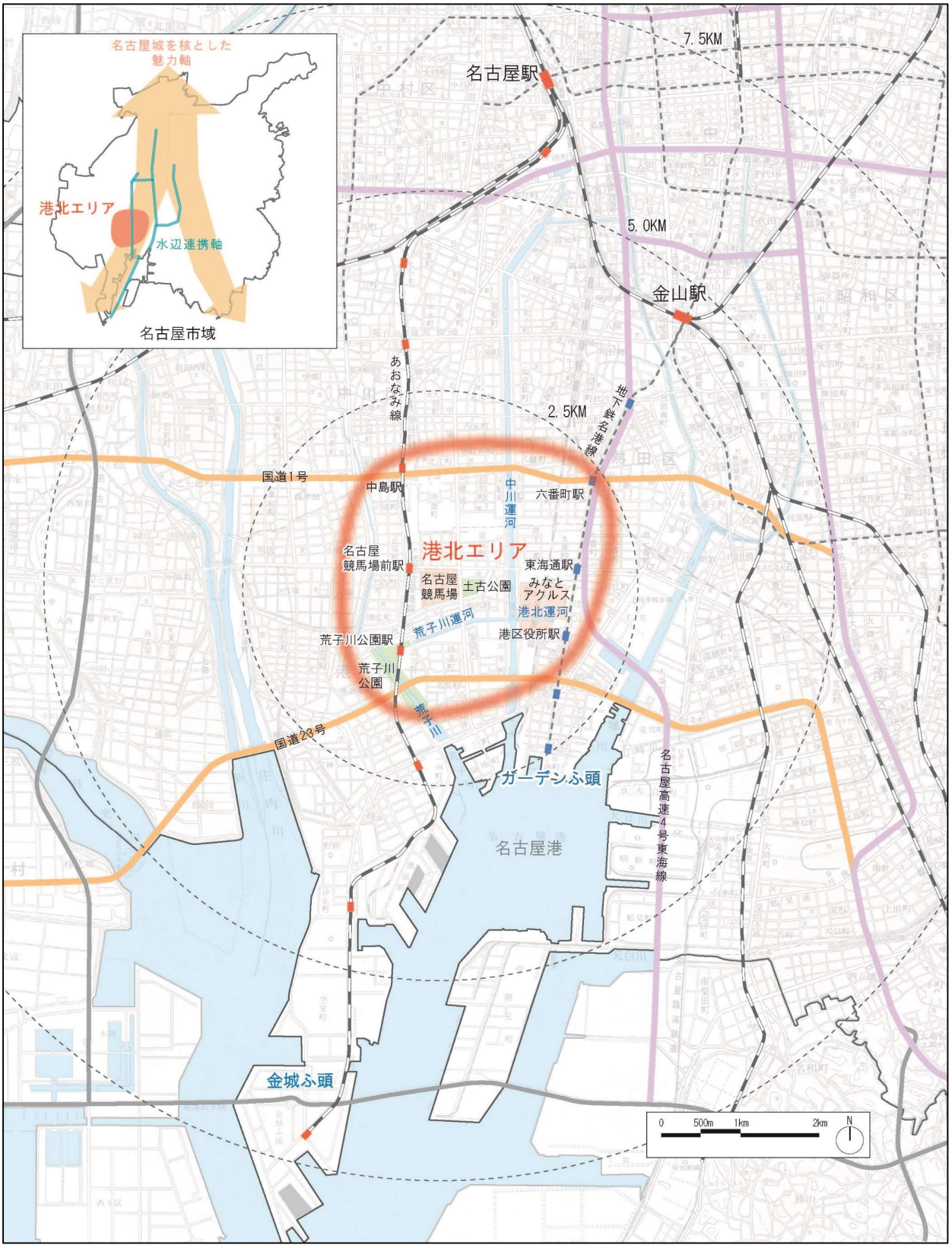


図　港北エリアの範囲

（４）港北エリアの概要

港北エリア及び周辺は、昭和初期までは主に干拓新田として土地利用され、平坦な土地がひろがっています。昭和初期における中川運河の築造とともに区画整理、道路等の都市基盤整備が進められました。

港北エリアは、地下鉄名港線、あおなみ線、国道１号、国道 23 号、東海通、名古屋環状線、江川線、名古屋高速道路などの交通基盤が整っているとともに、中川運河、荒子川運河、港北運河、荒子川などの水辺空間や、荒子川公園、土古公園などの公園・緑地があるエリアです。また、土地利用としては、住宅、工業、商業などの多様な都市機能が集積しており、名古屋競馬場、みなとアクルス、イオンモール名古屋みなと、市営住宅、工場等の大規模な土地利用が多くみられます。

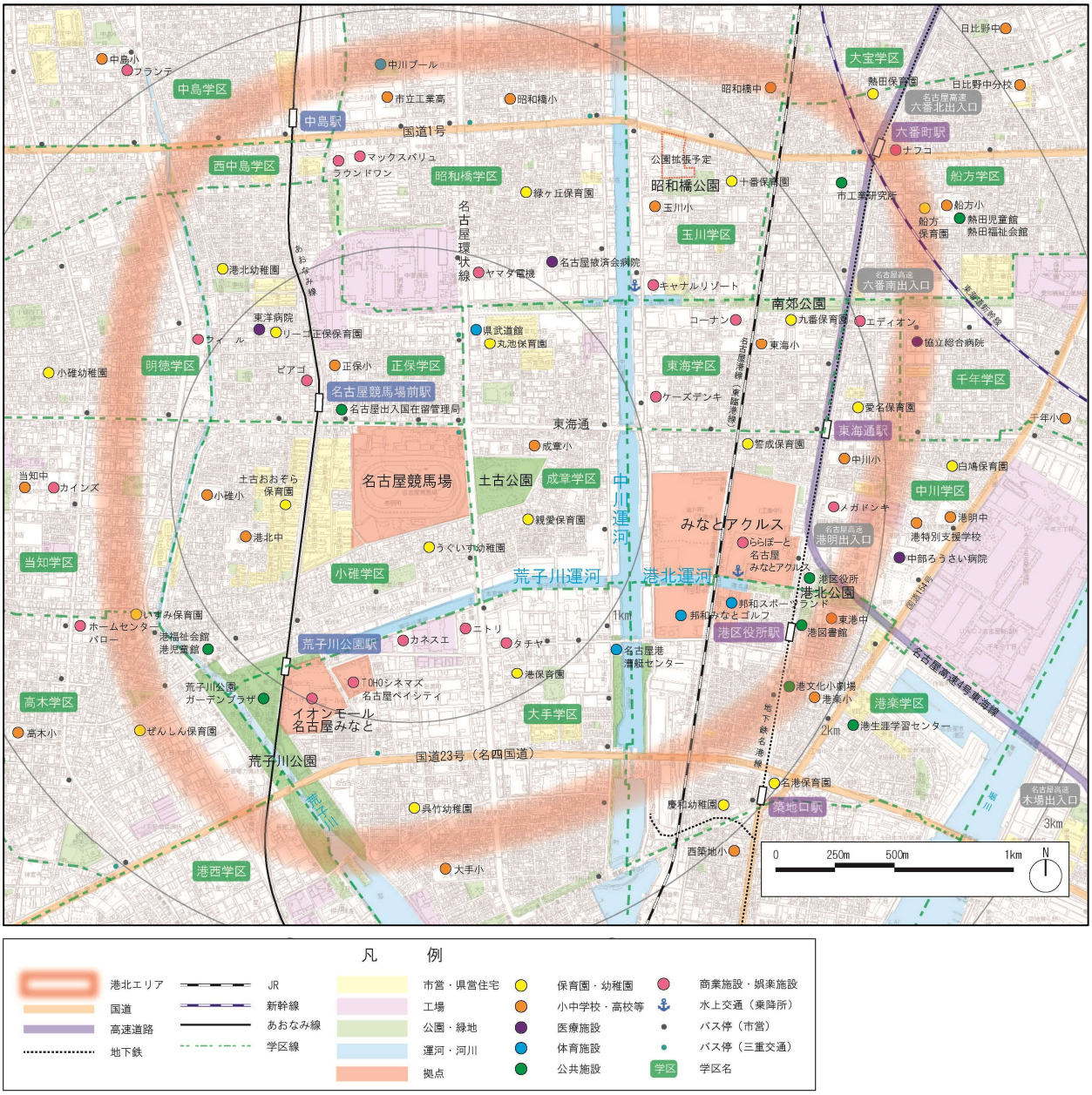


図　港北エリアの現況図

【港北エリアにおける主な現況写真】

名古屋競馬場前駅
（あおなみ線）

港区役所駅
（地下鉄名港線）

東海通

中川運河
（いろは橋）

荒子川運河

港北運河
（みなとアクルス乗船場）

荒子川

荒子川公園

土古公園

名古屋競馬場

みなとアクルス

イオンモール名古屋みなと

平和橋

地域のお祭り

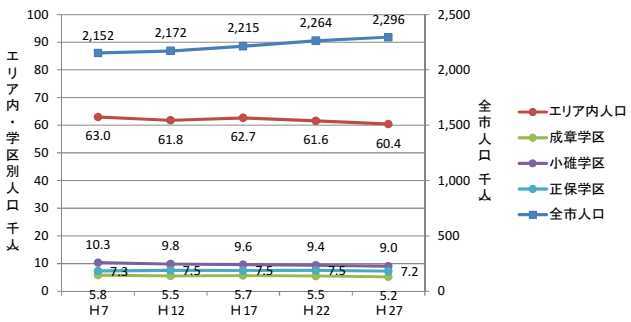
地域の盆踊り大会
みなとアクルス「デカゴン」

出典：みなとアクルス HP

1-2　港北エリアの現況と特性・課題

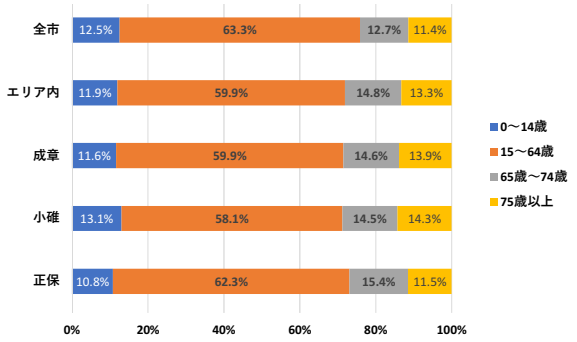
（１）港北エリアの現況（※エリア中央の成章学区、小碓学区、正保学区の３学区を抽出）

①人口・世帯数



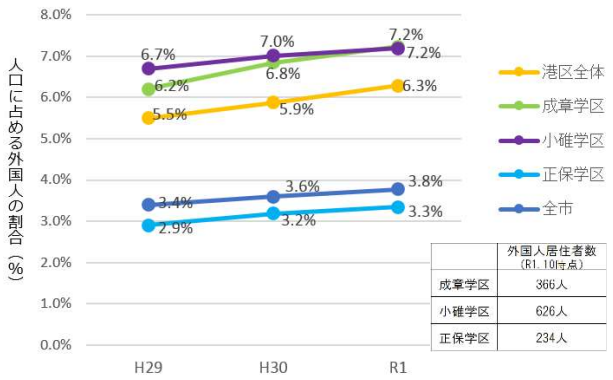
出典：平成７年～平成 27 年国勢調査

人口の推移

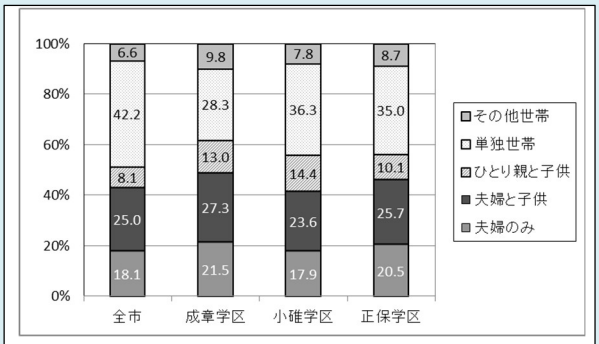


出典：平成 27 年国勢調査

年齢別人口



人口に占める外国人居住者の割合の推移　出典：名古屋市統計



出典：平成 27 年国勢調査

家族類型別一般世帯数

人口は、やや減少傾向にあり、市全体と比べて高齢者率、外国人居住者率が高いです

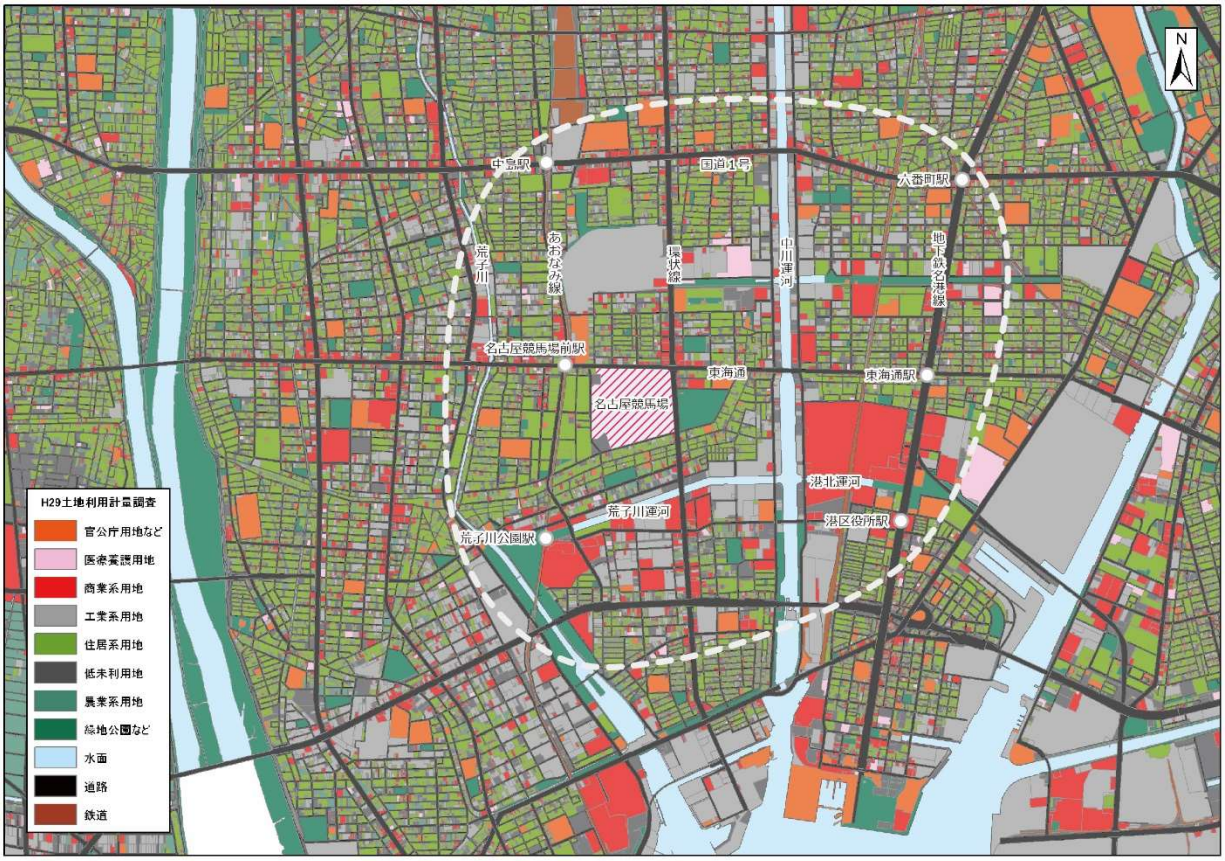
・全市人口が微増傾向にありますが、港北エリアの人口は減少傾向にあります。

・65 歳以上の人口割合が、全市の 24.2%に比べて港北エリア全体及びエリア内の３学区はいずれも 3~4%ほど多くなっています。

・港北エリアにおける人口に占める外国人居住者の割合は過去 3 年間の推移をみると増加傾向にあり、全市の割合に比べて港区の割合が 2~3%ほど多くなっており、成章学区、正保学区の割合は港区の割合を上回っています。また、外国人居住者数は小碓学区が多くなっています。

・家族類型別にみると、市全体と比べて、「夫婦と子供の世帯」や「ひとり親と子供の世帯」が多く、「単独世帯」は少ない傾向がみられます。

②土地・建物利用



※名古屋競馬場については、土地利用転換が予定されています。

住宅や工場等が混在しているエリアであり、幹線道路沿いは多くの商業施設が立地し、運河沿いは工業系の土地利用となっています

・名古屋競馬場は、競馬場移転後の活用が検討されており、今後、土地利用の転換が予定されています。

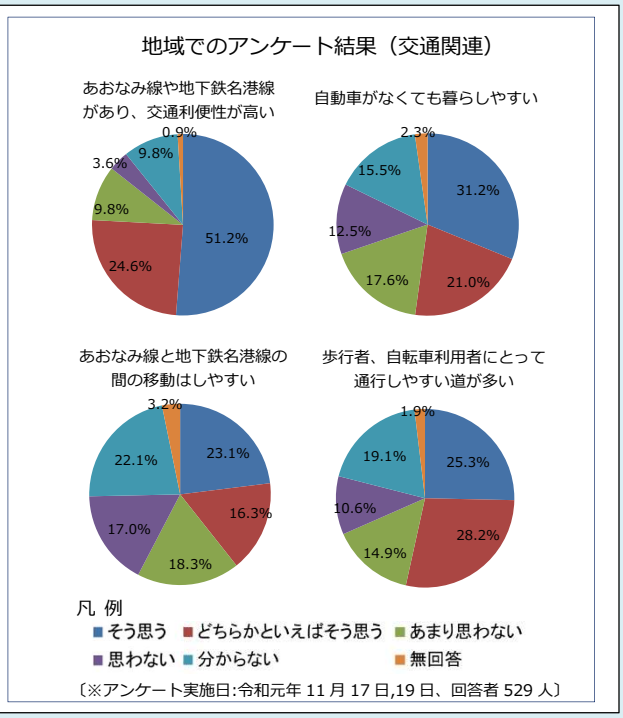
・運河や河川の水辺の割合が多いほか、名古屋競馬場に隣接する土古公園など、まとまった公園・緑地が点在しています。

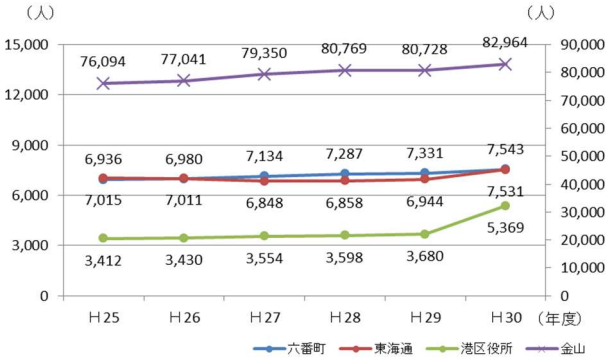
・港北エリアは、住居系用地が広がっていますが、エリア北部に大規模な工業系用地があるほか、運河沿いにおいても工業系用地として利用されています。また、幹線道路及び鉄道沿いは商業系用地となっています。

・広域からのアクセス条件に優れているため、工業・物流機能の集積があります。

③交通環境

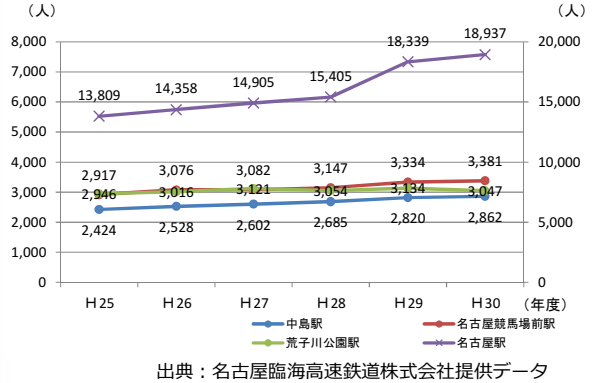
港北エリアにおけるバス路線図





出典：名古屋市交通局データ

地下鉄各駅の乗車人員（一日当り）



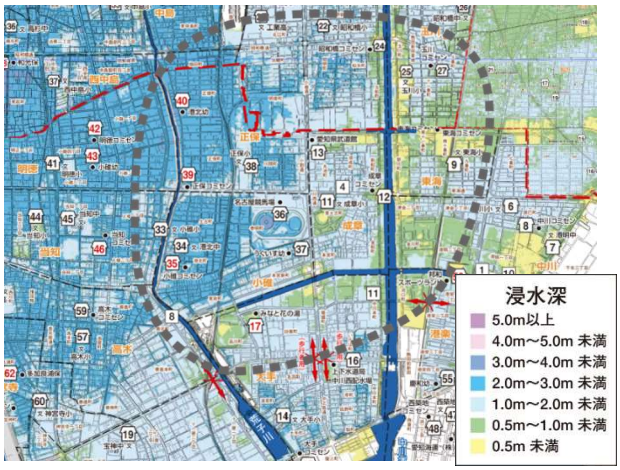
出典：名古屋臨海高速鉄道株式会社提供データ

あおなみ線各駅の乗車人員（一日当り）

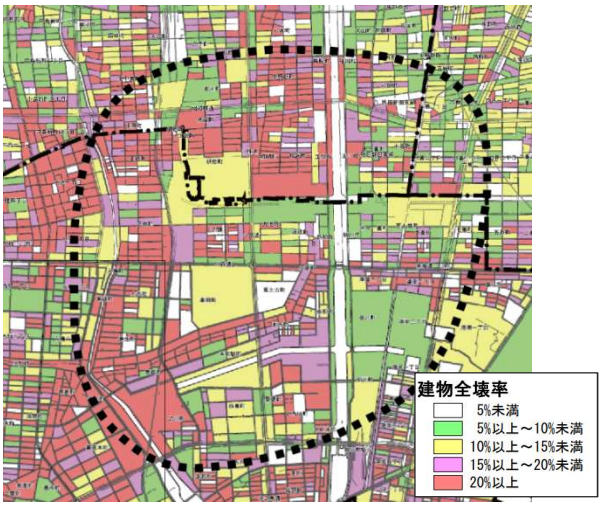
公共交通網が整備されており、鉄道の乗車人員は増加傾向にあります

- エリア内には、地下鉄名港線の駅が３駅（六番町駅、東海通駅、港区役所駅）、あおなみ線の駅が３駅（中島駅、名古屋競馬場前駅、荒子川公園駅）あります。また、バス路線が通っており、東西の路線として東海通、国道１号を中心に充実しています。
- 地域でのアンケート結果では、鉄道があり交通利便性が高い、自動車が無くても暮らしやすい、歩行者や自転車が通行しやすい道が多い、と感じる方が多かったです。
- 地下鉄各駅における乗車人員は増加傾向にあり、特に港区役所駅においては、平成 30 年 9 月のみなとアクルスの開業に伴うものと考えられる乗車人員の増加がみられます。また、あおなみ線各駅における乗車人員は、増加傾向にあります。
- ささしまライブと金城ふ頭を船で結ぶ「クルーズ名古屋」の乗船場がキャナルリゾート、みなとアクルスの２か所に設置されています。

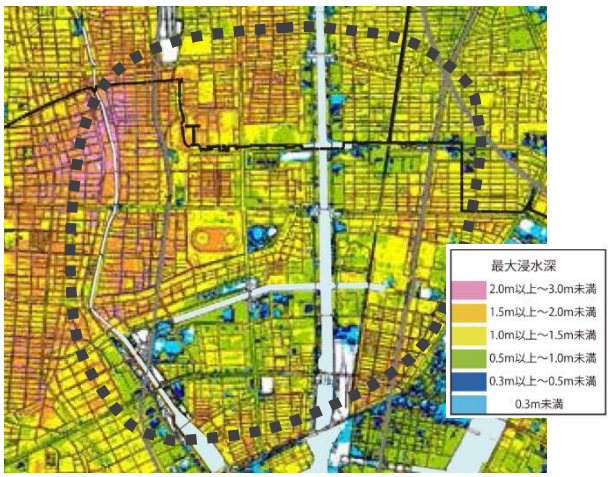
④安心・安全



あなたの街の洪水・内水ハザードマップ
（庄内川・矢田川氾濫時）



地震災害危険度評価図　建物倒壊の危険性



あなたの街の津波ハザードマップ＜浸水範囲＞
（あらゆる可能性を考慮した最大クラス）

あなたの街の津波ハザードマップ
（津波避難ビル）

洪水による浸水被害の危険性が高いほか、地震災害等への配慮が必要です

・洪水による浸水想定は、最大で 3.0m未満となっています。特に港北エリアの西側の浸水が深く、2.0～3.0mの想定となっています。

・南海トラフ巨大地震の被害想定では、このエリアは震度 6 強かつ液状化可能性が大と想定されています。また、地震災害危険度評価における建物倒壊の危険性は、建物全壊率（あらゆる可能性を考慮した最大クラス）について 15%以上 20%未満が多くを占めています。

・津波による浸水想定は最大 2.0m～3.0mとなっています。

・市営住宅等が津波避難ビルとして指定されています。

（２）地域の特性と課題

①地域の特性

●交通
・地下鉄名港線、あおなみ線が通り、名駅、金山、金城ふ頭などの都心域や拠点市街地を繋ぐエリアに位置しています。
・幹線道路を中心に市営バスが運行しており、鉄道とともに公共交通機関が充実しています。
・国道 1 号、国道 23 号、東海通、名古屋環状線、江川線、名古屋高速道路の広域幹線道路が通り、広域からのアクセス性に優れています。
●環境
・中川運河、港北運河、荒子川運河のほか、土古公園、荒子川公園といった大規模な公園があり、特徴的な景観の形成、水上交通、生物の生息・生育の場、健康・レクリエーション活動等の地域ポテンシャルを有しています。
●都市機能等
・ものづくり産業、企業などの工業系土地利用が多くあります。
・大型商業施設、生活商業施設、ロードサイド型店舗が多く立地しています。
・武道館、漕艇センター、野球場等のスポーツ施設が立地しています。
・名古屋出入国在留管理局が立地しているため、多くの外国人来訪があります。

②地域の課題

●交通
・東海通を中心に充実している東西のバス路線を、より活用していく必要があります。
・エリア内における拠点間の繋がりをこれまで以上に強化していく必要があります。
●環境
・中川運河、港北運河、荒子川運河の沿川では、うるおい、憩い、賑わいをもたらすような空間を充実させていく必要があります。
・広域幹線道路が多く自動車交通が中心の都市空間となっており、起伏の少ないエリアの特性を活かした歩行者が移動しやすい環境を創出していく必要があります。
●安心・安全
・水害や、地震による津波や液状化などの災害リスクが高い地域です。
・エリア内には建物倒壊の危険性が高い箇所があります。
●まちのイメージ・まちづくり活動
・市民や来訪者にとって、まちの個性やイメージがわかりにくいです。
・エリア内にはまちづくり活動を積極的に取り組む組織等が顕著にはみられません。
・多世代世帯も多い地域ですが、高齢単身世帯率や外国人居住者の割合が多く、多様な人々の交流によるコミュニティの醸成が求められます。